

山陰教区 門徒総代会だより

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 上田正吉
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



門徒総代会研修会の成果

山陰教区門徒総代会

会長 上田正吉

慈光照護のもと、皆様方にはご清祥にて念仏の日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年開催致しました平成二十九年度山陰教区門徒総代会研修会が、実り多い画期的な会であったことは大変喜ばしいことでございました。十月十二日出雲市の「ビッグハート出雲」を会場として、約二百三十名の総代の方々が参加され、浄土真宗本願寺派総合研究所研究員の坂原英見先生に「将来展望に基づく護持のあり方」と題して問題提起となるご講演をいただきました。その後、新しい試みとしてパネルディスカッション形式をとり、各代表がパネリストとして、各寺の護持の実態や取り組み、将来展望について生の声で発表され意見交換も活発になされました。

この研修会に参加された門徒総代の方々が問題意識を持たれ、今後の護持に前向きに取り組まれることを期待しています。どうぞ今後共、総代が率先し住職と連携しながら護持に努めましょう。

多死社会を迎えて

山陰教区門徒総代会 副会長
鳥取因幡組 西念寺総代 山根 一 記

持続可能な寺院の在り方についての問題が、総代研修会などで様々に論議されるこの頃です。

人口減少、少子高齢化、過疎化問題など日本の構造的問題を抱える中で山陰教区の多くの寺院は、時代の余波を大きく受けて、寺院護持の問題が喫緊の課題となっています。

近年社会環境が激変し、地縁の解体や宗教的な情操というのが壊れかけてきている状況が窺えます。更に地方から都会へ墓を移す「改葬」や「墓じまい」、葬儀方式では「家族葬」の増加や「直葬」など、寺をめぐるさまざまな問題がマスコミなどでクローズアップされています。また価値観の多様化する現代社会の中においては、宗教も「家

の宗教」から「個の宗教」へと変化の兆しが現れています。

このような重要課題が複層する中で、護持活動も新たな対応が求められています。

高齢化の進行する日本は、換言すれば多死社会を迎えることとなります。今後の護持活動を考える上で「メント・モリ（死を考える）」つまり人々に死を意識させる活動が更に重要になると思います。死後の行き先が思い定まれば、残る人生を豊かに生きられることとなります。死を意識させる活動を積極的に展開することは、信仰への間口を広げることとなり、新たな門徒を迎える機会になるのではないかと思います。

「正信偈会」で学ぶこと

山陰教区門徒総代会 常任理事
松江組 勝願寺総代 吉川 隆義

勝願寺では、毎月十六日ご開山様のご命日に正信偈会が開かれています。会は平成十八年に始まりましたが、今日まで一度も休むことなく続けられていることは特筆すべきことだと思います。今年七月には一〇〇回を数えます。

会発足のはじまりは、ふとしたことがきっかけでした。長い間ご本山に奉職されていた住職様（当時・副住職）が平成二十

年、時事問題や俳句や短歌、写経といった趣味に関することなど、テーマが幅広いのも大きな特徴です。そして、住職様からの一方通行ではなく、時には参加者同志でディスカッションとなることもあり、毎回楽しく参加させていただいています。「今さらうなぜ？」とおっしゃる方もおありかと思いますが、人間は常に学ぶ動物だから、私にとつて「正信偈会」は大変に意義深いのです。体力の続く限り参加させていただきたいと強く願っています。

合掌

熱心に伝えてくださいました。内容はご和讃の声明練習を基本としていますが、それ以外にも、仏教の歴史と思想、真宗史とご開山の教え、仏事に関する素朴な疑問の解説をはじめとし



2017(平成29)年度山陰教区門徒総代会研修会

期 日 2017(平成29)年10月12日(木)

会 場 ビッグハート出雲 白のホール

テ ー マ 結ぶ絆から広がるご縁へ
～将来展望に基づく護持のあり方～

講 師 坂原英見先生 備後教区三次組東光坊

内 容 開会式、パネルディスカッション
アトラクション、講演

パネリスト 松村 淳真(大田東組組長、専徳寺住職)
大迫五十鈴(山陰教区仏婦連盟委員長、大田東組常見寺総代)
村上 征男(鳥取代表、鳥取因幡組西法寺総代)
廣澤 英雄(出雲代表、出雲南組善徳寺総代)
松下 誠(石見代表、大田中組浄福寺総代)

参 加 者 229名



会長のリーダーシップにより、会場を三地区から、一会場に変更し規模を拡大して行いました。今まで話し合い法座を中心として開催してきた研修会は有意義ではありましたが、マンネリ化も否めませんでした。そこでパネルディスカッションを行うことになりました。「ディスカッションとは地域性の違いや、異なる意見のある方が良く、お互いに賛成意見ばかりではディスカッションにならない、討議する問題について数人の代表者

が聴衆の前で論議を交わすこと」という理念のもとに開催いたしました。一度リハーサルのために集まって頂き、本番に向けて時間の計測や、内容を若干修正し本番を迎えました。テーマは2点にしぼり、①法座の在り方、葬儀の在り方、②総代の役割を論議いただきました。論議は白熱し、会場も熱気を浴びました。

昼食休憩ののち、気分転換を図って頂くため音楽の演奏をしていただきました。地元のB-TRIOという、フルート、チェロ、ピアノの三人のグループで、クラシックやなつかしい童謡のアレンジの演奏でした。

午後は総合研究所研究員、坂原英見先生にお話を頂きました。熊本大学徳野貞雄教授のT型点検を通じて、地域の可能性についての話をいただきました。地域を出た子どもたちは帰還圏内に居住しているケースが多い、という事実に基づき、他出者といかにつながりともにあるかの模索が重要であり、流動的な社会には流動的につながり楽しんでいくことが大切、地域の高齢者、若者、他出者、その思いや苦悩を聞くことなど、私たちにもまだしなければならないことがあるとのお話しでした。



2016(平成28)年度 山陰教区門徒総代会 一般会計歳計決算

歳入の部

款 項	費 目	28年度決算額	28年度予算額	対比△減	説 明
1	会費	786,000	787,000	△ 1,000	
1	当年度会費	786,000	787,000	△ 1,000	28年度会費 (2,000円×386ヶ寺分) + (1,000円×13ヶ寺分・無住寺院)
2	前年度未収金	0	0	0	
2	研修会参加費	423,000	360,000	63,000	
1	研修会参加費	423,000	360,000	63,000	1,500円×282名分 鳥取50、出雲93、石見139
3	助成金	160,000	160,000	0	
1	助成金	160,000	160,000	0	教区助成金10万円／宗派助成金6万円
4	雑収入	0	837	△ 837	
1	雑収入	0	837	△ 837	
5	繰越金	823,163	823,163	0	
1	前年度繰越金	823,163	823,163	0	2015(平成27)年度繰越金
	合 計	2,191,163	2,130,000	61,163	

歳出の部

款 項	費 目	28年度決算額	28年度予算額	対比※超過	説 明
1	事業費	923,459	950,000	26,541	
1	研修費	804,875	750,000	※54,875	鳥取地区研修会 287,192円 出雲地区研修会 223,364円 石見地区研修会 294,319円
2	会報印刷費	118,584	200,000	81,416	会報「門徒総代会だより第6号／第7号」各900部印刷
2	会議費	147,550	250,000	102,450	
1	理事会費	120,750	150,000	29,250	理事会(各組代表者)1回
2	常任理事会費	26,800	100,000	73,200	正副会長会議
3	教化助成費	320,000	400,000	80,000	
1	教化助成費	320,000	400,000	80,000	各組助成金 2万円×16組
4	組織強化費	30,000	30,000	0	
1	組織強化費	30,000	30,000	0	全国門徒総代会教区負担金
5	事務費	73,434	90,000	16,566	
1	通信・印刷費	68,412	80,000	11,588	発信費 52,570円・郵便振替手数料 15,842円
2	諸費	5,022	10,000	4,978	事務諸費
6	雑費	0	10,000	10,000	
1	雑費	0	10,000	10,000	
7	出向費	138,740	40,000	※98,740	
1	全国門徒総代会費	0	20,000	20,000	
2	連絡協議会費	138,740	20,000	※118,740	中・四国連絡協議会出向経費
8	予備費	0	360,000	360,000	
1	予備費	0	360,000	360,000	
	合 計	1,633,183	2,130,000	496,817	

歳入合計 2,191,163

歳出合計 1,633,183

差引金額 557,980

2017(平成29)年度へ繰越し

門徒総代会だより第八号をお届けいたします。本号を発行するにあたり、ご協力いただいた方々にお礼申しあげます。

平成二十九年度の研修会ではT型集落点検という考え方を学びました。この点検によると「地域を出た子どもたちは、比較的近くの帰還圏内に居住しているケースが多い」という結論に至るそうです。普段気づかないけれど、「ふるさと」でつながっている人とかかわり方が、まだまだたくさんあるのではないかと提示でした。

宗門総合振興計画の三つの基本方針二の五「お寺に縁のない方々とともに集う開かれたお寺づくり」という計画

があります。時代の移り代わりの早さ、社会の変化に対し、魅力ある寺院活動や人々の心の糧となる情報を発信することによってお寺を必要な存在にできるとあります。流動的な社会には流動的にならねばなりません。流動的な社会には流動的にならねばなりません。流動的な社会には流動的にならねばなりません。

お寺が必要な存在になるためには、地域の高齢者、若者、他出者、その思いや苦悩を聞くことなど、私たちにまだしなければならないことがある。そのためには門徒総代の力が必ずや必要ではないでしょうか。今あるお寺を生かすため、ご住職とともに歩む門徒総代の力添えが必要であると期待されているようです。

編集後記

山陰教区ホームページのごあんない



- ・山陰教区行事予定
- ・最新記事
- ・教化団体からのお知らせ
- ・山陰の妙好人 など

山陰教区

検索

本願寺ホームページもご覧ください